やりゅうでぇ 70

◆頑張っている人物やグループを広報編集委員が紹介します。

役立つことは何もかも

町民が支える絵金蔵

絵金蔵ボランティア

赤岡町と言えば絵金の町。生誕200年記念行事も、3月8日の絵金の命日ごろまで行われます。今回は絵金蔵で活動している民間のボランティアさんを紹介します。

担当／広報編集委員　島村 立法

町民の知恵を力に

香南市の観光名所としてすっかり定着した絵金蔵も、開館から8年を迎えます。毎年絵金祭りには、赤岡に多くの人が訪れます。

ここ絵金蔵は、開館当初からの運営方針もあり、今では職員4人以外に27人のボランティアさんたちの活動が何よりの支えになっています。今回は全員の方ではないですが、お会いできました。

縁の下の知恵袋

蔵長の横田恵さんは「町の歴史や人生経験豊富なボランティアさんがいないと絵金蔵は成り立ちません」と言います。平均年齢70歳のボランティアさんそれぞれが、月何回か得意とする分野で活躍し、絵金蔵を支えています。一言でいえば「縁の下の知恵袋」。なにかと頼れる存在です。

絵金蔵で集う喜び

入口を入ると優しい笑顔で迎えてくれます。「絵金蔵の職員さんは、皆良い人ばかり」と皆さん口をそろえます。山崎須美子さんは「県外の人とお互いに地元の自慢をしたりして楽しい」。また、西川敦子さんはマップでブックカバーを折りながら「勤めている時はご近所さんと出会う機会がなかったけど、ここは町内の交流の場でもあります」と笑顔で話してくれました。

私のお茶を飲んでいただくまでは帰さない

蔵内の掃除や裁縫、座布団を作り、花を生ける方、絵金グッズを入れる手作り紙バッグ、時にはちょうちんを渡したり、簡単な説明も。「私らはなんせこの年まで世渡りしてきちゅうきに、人生の知恵がここでは役に立つねえ」と笑う声が頼もしいです。娘や孫、三世代が手伝う家族もいるとか。「お客さまにお茶を飲んでいただくまでは帰さない」と、どなたかがひと言。赤岡流気配りは、さすがです。普段着の会話が、お客さまに好評です。屏風絵修復費用のためのチャリティーグッズ作りも、ボランティアさんの大切な仕事。岡崎静香さんが代表して、グッズを手にほほ笑んでくれました。

世代を越えて残すため

町の皆さんが理解を深めているのも、日ごろのボランティアさんの力と言えます。改装工事のため、2月28日まで休館ですが、3月8日は絵金の命日。9日は土佐琵琶のイベントも行われます。「これからも屏風絵が世代を超えて、この赤岡町にずっと残っていてほしい」という皆さんの強い願いは、後世にきっと伝わることでしょう。

■問い合わせ
絵金蔵　☎57-7117（月曜日休館）

編集後記

▼今年は巳年。「巳」の字は、蛇が冬眠から目覚め地上にはいだす姿で「起こる、始まる、定まる」という意味があるのだとか。新しい年の始まり、皆さまにとって幸せな年でありますように…（猪）

▼今年も皆さまの笑顔あふれる広報を作っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。取材で会った時は、恥ずかしがらずに、ぜひとも笑顔を向けてくださいね。（T）

▼地区懇談会では、市政に対する率直な思いを伝えていただきありがとうございました。意見や要望など、その数277。抜粋になりますが、二月に渡って掲載しますので、ぜひご覧ください。（S）

▼今月の表紙はお正月バージョンということで、年女・年男の方々にご協力いただきました。表紙の皆さんのように、2013年が笑顔あふれる明るい年となりますように…。（あ）

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

■発行　平成25年1月1日　香南市広報誌　【Public Relations】

■編集　香南市広報編集委員会（市役所総務課秘書広報係）
〒781-5292 高知県香南市野市町西野2706　tel.0887-56-0511　■印刷　川北印刷株式会社